

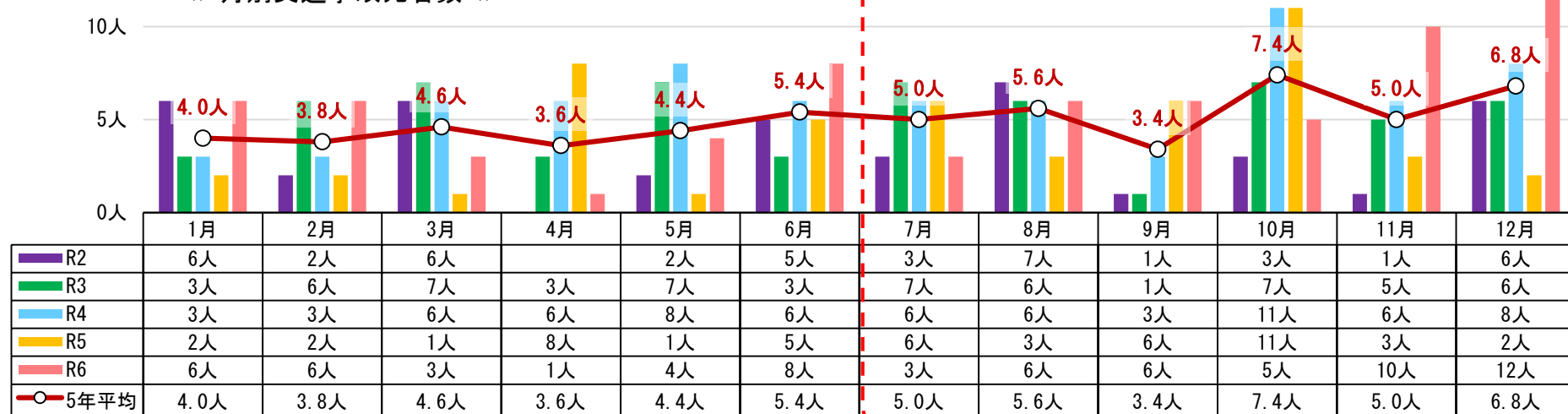
下半期の交通事故発生傾向 ～ 過去5年間（R2～R6）～

過去5年間の下半期の死者数は169人で、年間（299人）の56.5%を占め、下半期に死亡事故が多発する傾向が高い。

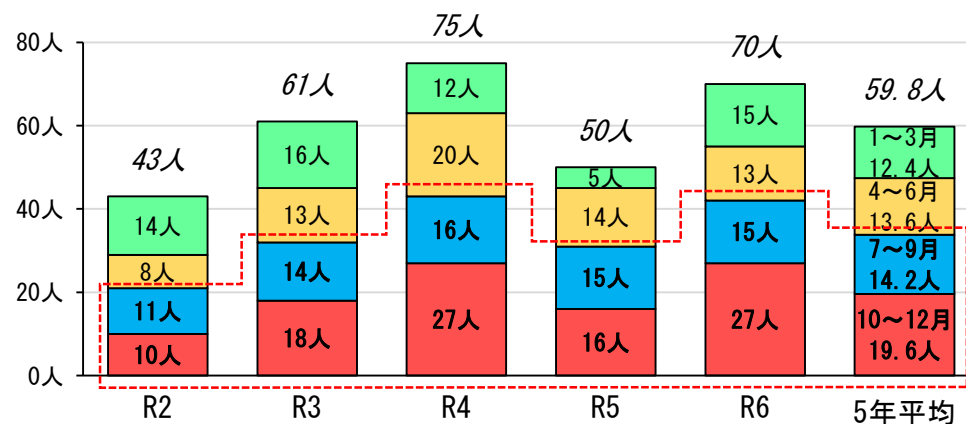
このうち、10月が最多の死者数で、次いで12月、8月が多い。

四半期別では10～12月（98人）が最多の死者数で、最近5年間では、10～12月の占める割合が高くなっており、令和6年は4割近くを占めた。

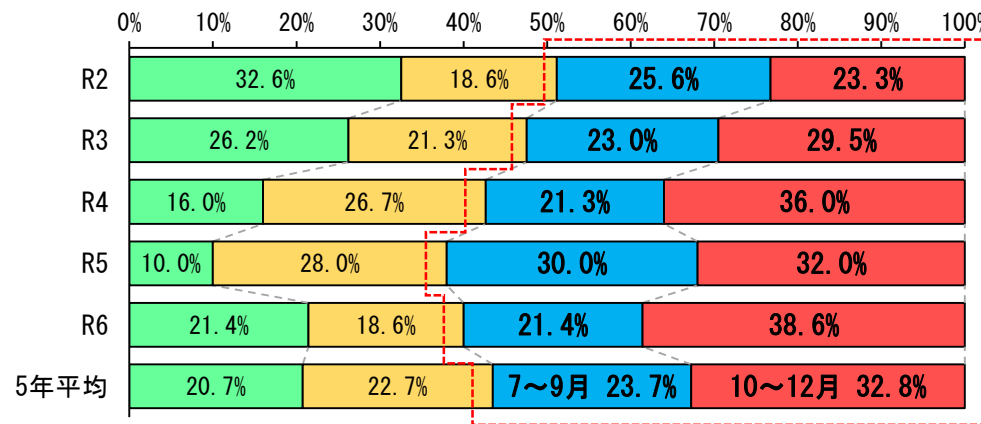
《 月別交通事故死者数 》



《 四半期別交通事故死者数 》

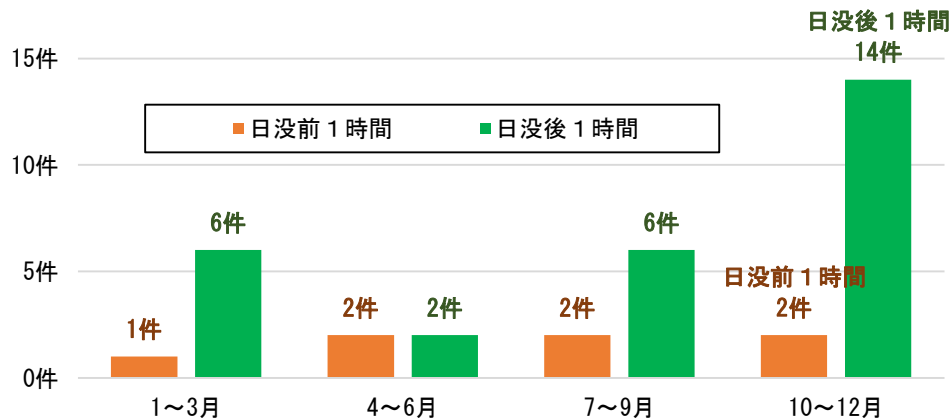


《 四半期別交通事故死者数の割合 》

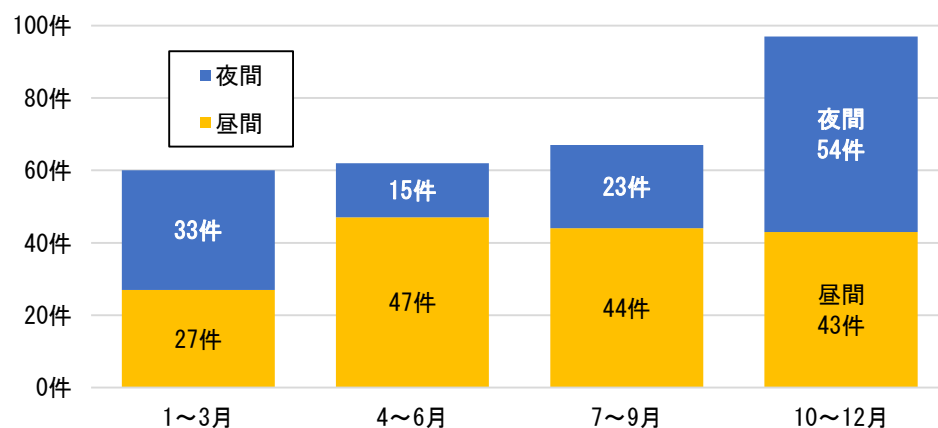


10～12月は、夜間の事故が7～9月の約2倍の発生と多く、全事故の55.7%を占める。
また、薄暮時間帯（日没前後1時間）の事故は14件で、7～9月の2倍以上発生しています。

《 薄暮時間帯の死亡事故件数 》

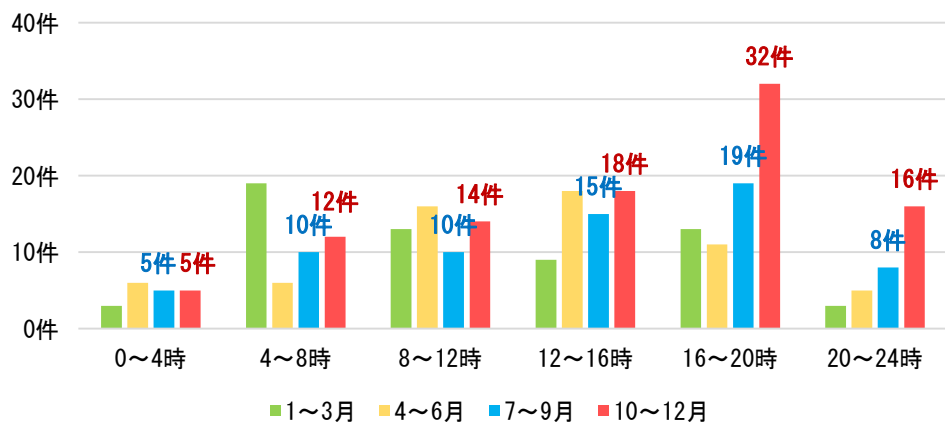


《 昼夜別死亡事故件数 》



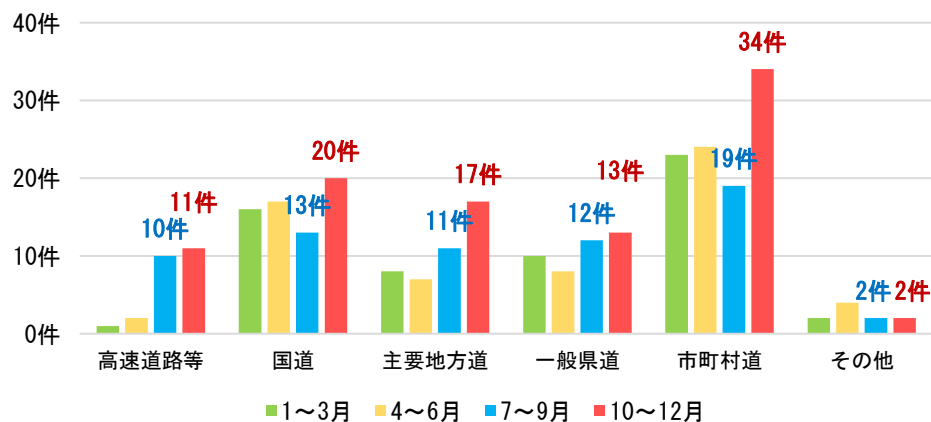
下半期は16～24時の死亡事故が75件で、上半期（32件）の約2.3倍の発生で、特に10～12月に多発する傾向である。

《 時間帯別 》



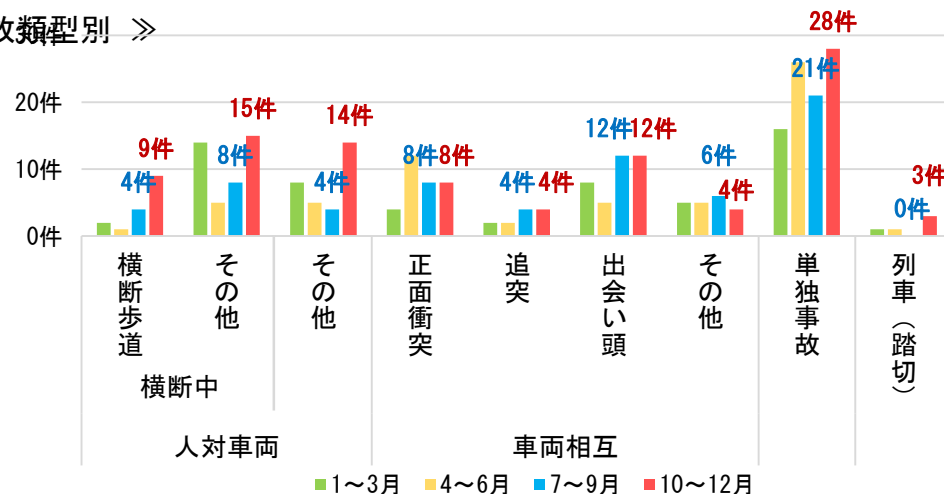
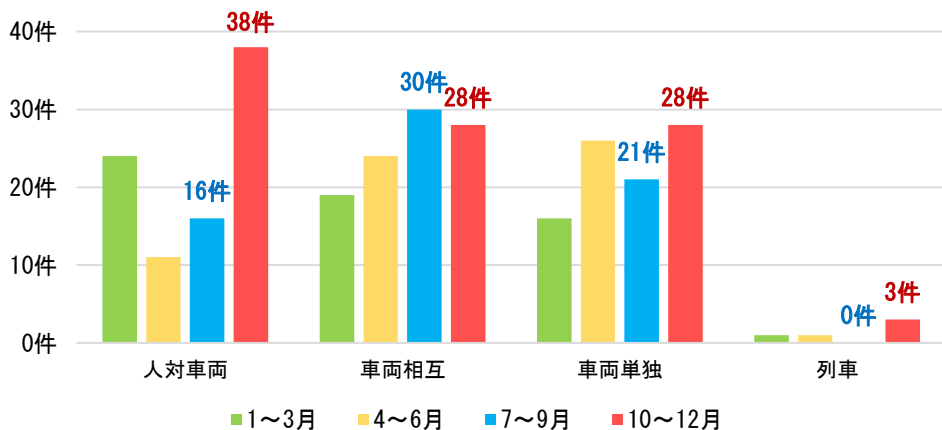
下半期は高速道路での死亡事故が上半期（3件）の7倍の発生と多発しているほか、市町村道での事故が10～12月に多発する傾向である。

《 道路種別 》



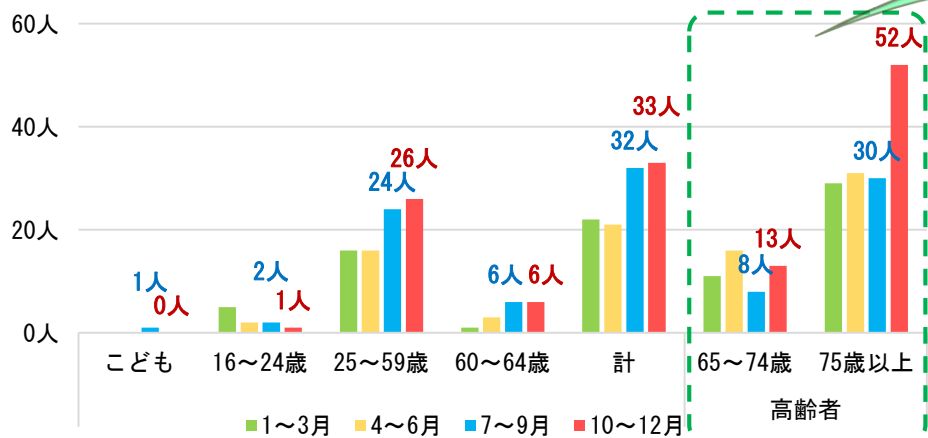
人対車両の事故が下半期は54件で上半期（35件）の1.5倍の発生で、特に道路横断中の事故は36件で、上半期（22件）の1.6倍と多く発生しています。さらに横断歩道横断中の事故は13件で上半期（3件）の4倍以上の発生しています。

《 事故類型別 》

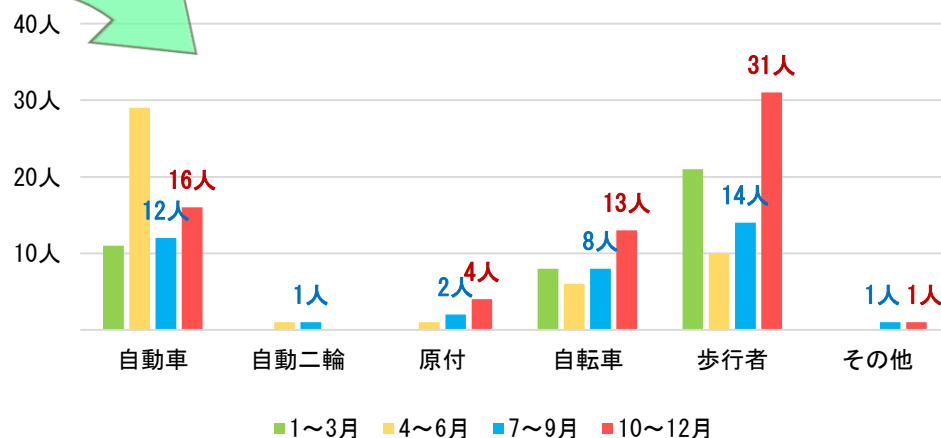


高齢者の死者が下半期は103人で上半期（87人）の約1.2倍と多く発生しています。このうち歩行者は45人で、上半期（31人）の約1.5倍と多く、特に10~12月は31人で年間の40.8%を占めています。また、下半期の高齢者の自転車乗用中の死者は21人で、上半期（14人）の約1.5倍と多く、特に10~12月は13人で年間の37.1%を占め、下半期は高齢者の歩行中、自転車乗用中の被害が多く発生しています。

《 死者の年齢層別 》

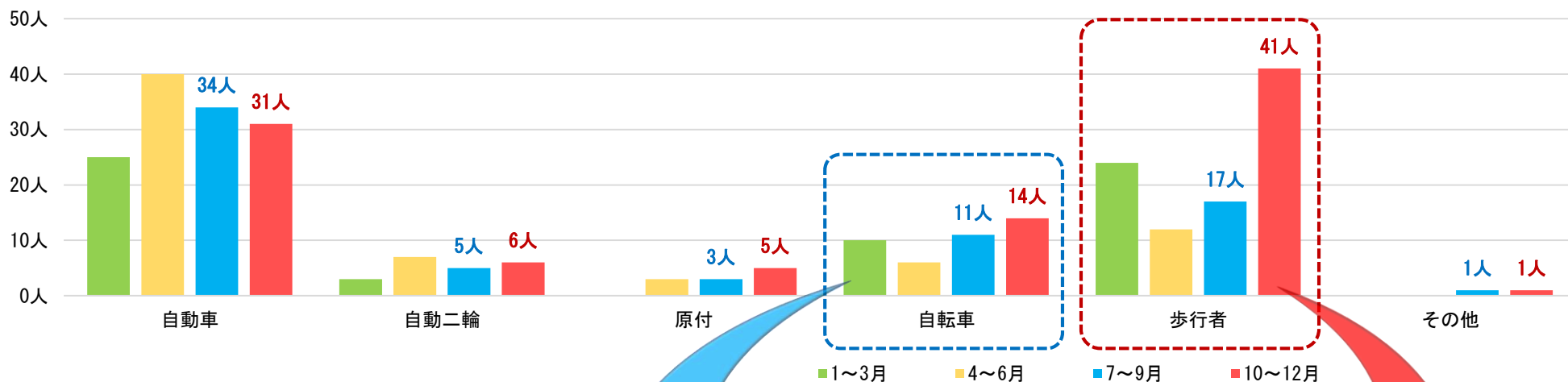


《 高齢死者の状態別 》

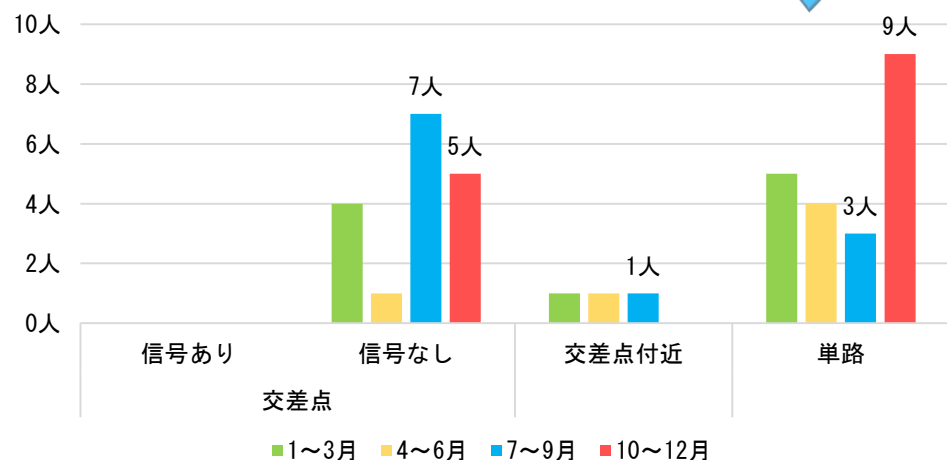


歩行者の死者が下半期は58人で上半期（36人）の約1.6倍と多く、特に道路横断中の死者は38人で、上半期（22人）の約1.7倍と多く発生しています。さらに、横断歩道横断中の死者は14人で年間の82.4%が下半期に発生し、特に10～12月に多く発生しています。また、自転車乗用中の死者が下半期は25人で、上半期（16人）の約1.6倍で、信号機の無い交差点で多く発生しています。

《 死者の状態別 》



《 自転車乗用中の死者 》



《 歩行者の死者 》

